

両生類

エゾサンショウウオ

Hynobius retardatus

サンショウウオ科



エゾサンショウウオ

名前の由来

北海道に生息するサンショウウオであることから。サンショウウオの名前の由来は山椒の様な臭いのする液を出すからといわれている。漢字名：蝦夷山椒魚

魚類

特定種

国レッドリスト（2007）：情報不足（DD）

北海道レッドデータ：留意種（N）、十勝平野の個体群は地域個体群（LP）

底生動物

形態的特徴

全長115～200mm、体重5～15g。全身黒褐色。前肢指4本、後肢指5本。繁殖期のオスは尾がヒレ状になる。

両生類
爬虫類

類似種と見分け方

キタサンショウウオ。

キタサンショウウオは日本では釧路湿原にのみ生息する。
※幼生はえらの部分にバランス（平衡棒）と呼ばれる突起を持つのでカエルのオタマジャクシとは区別できる。

トンボ

チョウ

樹木



エゾサンショウウオの亜成体

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類



エゾサンショウウオの幼生（左上・下、右上）。バランスを持つ。右下はエゾアカガエルの幼生（オタマジャクシ）



エゾサンショウウオの成体

（草原・樹林）
鳥類
ワシ・タカ

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
出現期				■								
冬眠期	■										■	
繁殖期			■									

生息環境・分布

池、水溜まりの他、溪流沿いの緩やかな流れや溜まり、大きな湖の畔の周辺など、止水と樹林があれば普通にみられる。道路脇の側溝などでも産卵する。

幼生時は水域で、成体になってからは草地や森林に生息。平野部では生息環境が減少している。

分布：国外分布は、なし（日本固有種）。国内分布は、北海道のみ。北海道内では、全域（離島を除く）に分布。十勝地方では、平地から日高山脈など高山まで広く分布するが、主に山間部から高地の沢沿いなどの水辺で見られる。平野部では若葉の森（帯広市）などの湿地林、河川への流入支川や湧水などに生息するが、多いとは言えない。



エゾサンショウウオが産卵し、幼生まで生息する池

食性・他生物との関わり

成体は主に昆虫などを捕食する。幼生も水生動物などの他、カエルのオタマジャクシなどを捕食する。

哺乳類、鳥類などに捕食される。シマフクロウが捕食した例もある。

繁殖生態・寿命

産卵期は平地では4～6月、高地では7月にまでなる。卵のうは螺旋状のゼリーに包まれている。1対の卵のうに20～120卵があり、30～40日で孵化する。幼生はえらの部分

にパラササー（平衡棒）と呼ばれる突起を持つ。多くはふ化した年の秋に成体となって上陸し、草地や森林に生息する。



水中のエゾサンショウウオの卵塊。ゼリーに包まれる



ふ化直前のエゾサンショウウオの卵塊。ゼリーはらせんを描くひも状になっている

興味深い話

■産卵期になるとオスは水の中でメスがやってくるのを待つが、その際に尾が薄く平らになり、水中生活に適した形態になる。

■普通、孵化した年の秋には変態し上陸するが、高地や水

温が低い場所では幼生のまま越冬し、翌年～3年後に変態・上陸するものもある。

■幼生は池の中の泥や堆積物の下などに潜り込んで、成体は土中、落ち葉の層の下などで冬眠すると思われる。

配慮事項

繁殖可能な池や湿地と同時に、成体となった後の生息場所として周辺の草地や森林があることが必要。人為的に生息環境に配慮する場合、水の枯れない池を造成したり、小河川でも淀みを作るなどで繁殖場所を提供することが可能と

なる。また、岸の勾配を緩くすることで、変態後の上陸が容易となる。移動能力の大きい生物ではないので、生息域が孤立していない事も重要と思われる。

参考文献

「日本動物大百科 両生類・爬虫類・軟骨魚類」日高敏隆監修 平凡社 1996

「決定版日本の両生爬虫類」内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関慎太郎 平凡社 2002

「シマフクロウ」山本純郎 北海道新聞社 1999

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類